

客舎の壁に題す（雲井龍雄）

斯の志を 成さんと 欲して

豊 窮を 思わんや

骨を 埋む 青山 碧海の 中

酔うて 宝刀を 撫し 還 冷笑す

決然 馬を 躍らして 関東に 向う

欲成斯志豈思躬 埋骨青山碧海中
醉撫寶刀還冷笑 決然躍馬向関東

解説 薩長の横暴を憤り、東奔西走した中で、奥羽連合結成をめざして活躍しようと、故郷米沢を発つたときの詩であろう。

語釈 ※客舎＝宿屋。はたご。※題＝しるす、書きつける。※斯＝この「と読む指示語。ここでは奥羽連合を成し遂げようとする自分の志。※豈思躬＝自分の命を投げ出してもやりとげねばならないという覚悟を述べようとする。※埋骨＝自分の骨を埋める。すなわら、死を意味する。※青山＝木々の茂った山。※碧海＝青い海。※宝刀＝伝家の宝刀。

通釈 自分の信ずるところを貫徹しようとするのみで、身の安危生死などを顧みる気持にはない。そうであるから、どこで果てようとも思うことはない。草蒸す屍と成り果てようとも、水漬く屍と沈もうとも覚悟はできている。そんなことを考えていると、思わず昂つてきて、酔いの紛れに伝家の宝刀に手をかけ、また、時世を冷やかに笑う。意を決して、馬を躍らせて、目的を達すべく関東めざして道を急ぐのである。